

植林&屋上緑化・ガーデニング普及 / 地球緑化推進セミナー

最終実施報告書

環境 NGO 屋上緑化普及協議会 会長 佐宗 邦夫

植林&屋上緑化・ガーデニング普及 / 地球緑化推進セミナー 実施報告書

環境 NGO 屋上緑化普及協議会 会長 佐宗 邦夫

平成14年(2002年)6月に設立されました環境緑化NGO 屋上緑化普及協議会では、昨年8月初旬の日経BP社主催による「都市再生フォーラム」の展示会に出展させていただきましたが、今回は屋上緑化公開セミナーを、新たな趣向をこらして「地球緑化推進セミナー」と変えて、実施させていただきました。

ご承知のように、地球温暖化の問題は今や人類の危機を招来するものとして警鐘が発せられております。今年からは、地球サバイバルという観点から「ガーデニングの都市緑化機能」に深く着目して、家庭における緑化の普及をも包含しかたで、すべての建物・空間を対象とした都市緑化の普及、啓蒙活動を本格的に実施して行きたいと考えており、日本熟年会議所からも協同推進の呼びかけをいただきました。これまでの「屋上・壁面緑化、校庭緑化の普及」や「植林活動」に加えて、新たに「家庭内におけるベランダ緑化・室内緑化」の「ガーデニング」をも緑化活動の中心的活動として本格的に取り上げていきます。

緑化活動に関し、殊に中国においては2008年北京オリンピックを控え、「緑のオリンピック」を掲げる中国政府は、「都市緑化推進」や「植林活動推進」は「国家の至上命題」となっており、日本の緑化技術、とりわけ壁面緑化・植林技術に関しては、日本の企業・団体に対し熱い期待と具体的な技術支援要請が寄せられております。本セミナーでは、地球温暖化防止という観点から「地球的規模での緑化活動への取組み」を考え、環境技術大国である我が国の緑化技術を、中国を含む海外諸国にどう還元・移転させ「地球緑化推進」の「社会貢献の緑化活動」を地球規模で進めて行くべきかを皆様と共に考え、具体的な方策を模索し、参加されました皆様のご理解とご支援を賜り、今後の活動ビジョン展開も含め、内実のあるセミナーとなりました。

記

日時 : 平成19年(2007年)3月5日(月)

* 講演会 13~16時 & 懇親会 16時~17時半

会場 : 星陵会館 〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-16-2

*講演会 : 2階ホール / 懇親会等 : 4階レストラン「シーボニア」

TEL 03(3581)5650 FAX 03(3581)1960

*東京メトロ「永田町」下車 東方面へ徒歩3分

講演プログラム :

- | | | | |
|--|--------------|-------|------------|
| 挨拶 | 屋上緑化普及協議会 会長 | 佐宗 邦夫 | 13時~13時10分 |
| 「屋上緑化普及協議会のこれまでの経緯と新NPO 地球緑化推進機構の設立」 | | | |
| 祝電紹介代読 | 北京市園林局副局長 | 強 健 氏 | 13時10分~30分 |
| 「中国緑化基金会」緑長城作業委員会・常務副主任兼秘書長 紅成 氏 | | | |
| 「北京オリンピックに向けた中国の緑化計画と植林と日本への期待」 | | | |
| 環境コンサルタント・故周恩来元総理姪(養女)婿 | 任長安 氏 | | 13時30分~14時 |
| 「中国での植物油(代替燃料)植林(南洋アブラ桐: Jeyropha curcus)最新事情」 | | | |
| ランドスケープデザイナー | 白砂伸夫 氏 | | 14時~15時 |
| 「緑化に向けた国民の心を変えるガーデニング普及と今後のビジネス展望」 | | | |
| 地球環境評論家 | 船瀬俊介 氏 | | 15時~16時 |
| 「屋上・壁面緑化の現状と今後のビジネス展望 & 地球環境蘇生に向けての提言」 | | | |

参加人員 120名 参加費： 講演会 / 5000円 (事前振込申込4000円) 学生は1000円

懇親会 / 5000円

セミナーの趣旨

「屋上緑化&ガーデニング」に関心を有する関係者を対象に、それらが単なる緑化や趣味を超えた地球環境の意義があることを確認し、併せてそれらの具体的、理念的な普及活動を推進する。本来、緑化活動は自然と共に生きてきた日本人の世界に貢献できる分野であり、日本文明の所産とも言える。そのような意義・意味も考えながら、様々な生存領域における緑化活動の在り方を、ビジネスの観点を中心に、さらには生活における伝統・文化を基礎とした芸術的視点からも探ってみたいと思います。その推進役として、緑化を愛する女性の方々にも積極的参加をお勧めします。

(1) セミナー内容：

屋上緑化、壁面緑化、校庭緑化、ベランダ緑化、屋上菜園 の現状、ビジネス展望 等

(2) 中国側緑化関係者との交流：

2008年 北京オリンピックを控えて中国は、この五輪を“グリーンオリンピック”として位置付けており、北京市は本格的な北京市内の屋上緑化等により、都市緑化に努めている。中国の屋上緑化は、北京市の指導によりかなり普及してきたが、壁面緑化の技術がまだないので、緑化技術の進んだ日本の先進民間企業との技術・ビジネス交流に熱い視線が寄せられている。中国政府・北京市や企業関係者を招請する今回のセミナーを機に、両国の関係者同士の交流を深め、相互のビジネス連携を支援する。

対 象 行政、大学/研究機関、首都圏を中心とする全国の建築・設計業界、造園関連企業・団体、緑化に関心を持つ一般事業関係者、個人 等

講師プロフィール

任 長安 氏 (日中コネクター・環境コンサルタント) 元新華社特派員・故周恩来元総理姪(養女)婿)

船瀬俊介 氏 (地球環境評論家)

1950年 福岡県田川郡生まれ。1968年 九州大学理学部入学、早稲田大学第一文学部社会学科卒業。早稲田大学第一文学部卒業。早稲田大学第一文学部在学中は、早大生協の消費者問題担当の組織部員として活躍。学生常務理事として、生協経営にも参加した。約2年半の生協活動の後、日米学生会議の日本代表として訪米。ラルフ・ネーダー氏のグループや消費者同盟(CU)等を歴訪。1990年3月と12月、ラルフ・ネーダー氏らの招待で渡米。多彩な市民・環境団体と交流を深める。独立。現在、消費者・地球環境問題を中心に評論、執筆、講演活動を行っている。著書に、『エコエネルギーQ&A』、『地球にやさしく生きる方法』、『買ってはいけない』、『温暖化の衝撃』、『近未来車EV戦略』、『高圧線があぶない!電磁波でガン・白血病が急増』、『都市を救う屋上緑化』、『これからのびるエコベンチャー』など多数

白砂伸夫 氏 (ランドスケープデザイナー) 1953年 京都生まれ 52歳 1975年信州大学卒業 1976~83年京都大学建築教室 増田友也教授に師事 1995年 ベルギー：ゲントフローラリー 国際庭園コンテスト審査員 1996年 スリランカ：ピースセンター水の庭園設計 屋久島：自然文化村センター、ランドスケープデザイン 2005年 岐阜県花フェスタ「世界一のバラ園」設計監修 長崎県：ハウステンボスアートガーデンプロデュース 2006年 中国：瀋陽 国際園芸博「ローズパビリオン」設計 2000年~06年 「杉材の町東京10カ国大使夫人のガーデニング in Okura」ディレクター <主催：ホテルオークラ東京、後援：(社)園芸文化協会>

共 催：有限責任中間法人 日本熟年会議所・NPO法人 地球緑化推進機構(設立申請中)・

NPO法人 アジア植林友好協会・NPO法人 市民国連(設立申請中)

後 援：外務省、国土交通省、環境省、農林水産省、東京都、東京商工会議所

協賛：(株)ガーデン二賀地

当日は、ややドン天の曇り空の中、月曜日の午後という不便な時間帯にもかかわらず、添付リストにあるような数多くの出席者・参加者を全国各地から得て、静かにスタートした。

(1) 講演会 13～16時

来臨される予定の胡勝才中華人民共和国 在日本大使館 参事官が、急用で来られなくなり、参事官の挨拶とメッセージ代読に代わり屋上緑化普及協議会会長の佐宗が代わりに、北京市園林局副局長 強 健 氏 よりの、屋上緑化普及協議会宛て祝電並びに緑化についてのメッセージを代読させて戴きました。

挨拶と北京市園林局要人からのメッセージ披露代読 (添付資料1：北京市園林緑化局 強健副局長
& 「中国緑化基金会」緑長城作業委員会 常務副主任 兼 秘書長 紅成 氏 祝電)

その全文と詳細、及び日本語翻訳は、添付の通りであります。(13時10分～30分)その内容は、中国の「北京オリンピックに向けた中国の緑化計画と植林と日本への期待」といったものでした。その中で同氏は、以下のような要旨の内容で、

- ・ 尊敬する 環境NGO 屋上緑化普及協議会の佐宗邦夫会長に対して、北京市園林緑化局をお招き下さり、私は代表して「地球緑化推進セミナー」(第10回屋上緑化普及公開セミナー)の開催に対して、熱烈な祝賀の意を表明し、その盛会と成功とをお祈り申し上げます。
- ・ 中国では、経済の飛躍的成長の下で、資源の消耗、大気汚染、生態系の悪化等の異常事態となり、環境問題は、中国の国内問題のみならず、全地球の深刻な問題化して、環境問題の解決を中国政府は重要事項と位置付けております。
- ・ 屋上緑化は、都市の緑化に有益で都市の緑が増え景観が美しくなり、自然の降水が蓄えられ、地上の熱が放熱され、空気中の汚濁物が少なくなり、豊かな土地資源となり、都市の生態系機能が良くなり、あらゆる方面にプラスに作用します。
- ・ 「灼熱砂漠」都市を緩和する為にも、貴会の屋上緑化普及事業の絶え間ない努力が実を結び、都市景観が美化され、都市生態環境が改善し、都市緑化の進捗率が向上し、北京オリンピックには良く作用しますので、都市建設の重要な柱として推挙されています。特に屋上緑化は大規模に国家政策として行なわれ、2005年と2006年で北京市と園林緑化局の責任者は、多くの関心と支持を集めて、既に、23万平方メートルの屋上緑化が実施されました。2007年の今年は、さらに北京市の屋上に10万平方メートルの屋上緑化を実施されるように勧めております。我々は、全市で最大どれだけの面積を屋上緑化することが可能かを調査して、科学的に更なる屋上緑化の研究発展を進め、基本的には屋上緑化は尊いことなので、順次北京市の屋上緑化を法規制で立法化して、義務化し推進してゆくべく取り組んでおります。すなわち、屋上緑化建設設計基準と規範の設定、建設設計を促進するのに有効な規制、屋上緑化事業を維持発展させる保証、継続して屋上緑化を宣伝・普及させてゆく力、全社会に屋上緑化を知らしめる提言、各方面を屋上緑化普及活動に参加させる運動、屋上緑化を科学的研鑽を協力を継続し、普及活動の力量、低層建物の屋上緑化建設とその管理、それらの建設と管理の科学技術水準といった項目の順次の法規制が検討されています。
- ・ 2008年に開催されるオリンピックは、北京市の都市建設と公園緑地化の発展には歴史的な好機が与えられ、関係する国際関係の政府にも絶好の機会が与えられました。特に、屋上緑化については、まだまだ中国では発展途上であり、その整備には先進技術を有する日本国の例に学びたいので、貴団体のような屋上緑化の普及団体の存在は大変ありがたく、今後は両国の企業の相互交流を通じて、相互交流が合作と連帯の提携がはかれる好機となります。中国と日本は、今後屋上緑化発展の途上にあり、絶え間ない力付け、方法と経験等のあらゆる交流により、屋上緑化事業の推進に発展前進するよう致しましょう。

北京市園林局 副局長 強 健 氏

続いて、「中国緑化基金会 緑長城作業委員会」を代表して、中国緑化基金会 緑長城作業委員会
常務副主任 兼 秘書長 紅成 氏からの祝電が、同じく披露されました。

- ・ 尊敬する 環境NGO 屋上緑化普及協議会の佐宗邦夫会長に対して、「中国緑化基金会 緑長城作業委員会」を代表して、「地球緑化推進セミナー」(第10回屋上緑化普及公開セミナー)の開催に対して、熱烈な祝賀の意を表明し、その盛会と成功とをお祈り申し上げ祝電を差上げます。
- ・ 中国緑化基金会は、「中国国家林業局」直轄の全世界の国際的な性格を有する「緑化」「公益」基金です。この基金は、「国連経済社会理事会」において特別に承認された機構で、特別な地位を占めています。中国の国内外の緑化基金を募集し、国民全体の為に中国の森林建設と環境保護の面で重要な役割を果たす組織で、国際民間植林協力の面でも窓口となります。
- ・ 近年、この組織は中国緑化基金を日本との間で、数多くの緑化・植林活動を行なって参りました。例えば、「中国緑化協力記念林」や「中日友好北京富士友誼林」「日中緑化交流基金協力植林」「中日韓青少年国際緑化交流活動」などの活動を通じて、合計の植林面積は3000ha で投資金額合計は日本円で500億円にも達し、
- ・ 生態環境を「緑文明の21世紀」に相応しい新しいテーマとなっています。
- ・ 「万里の長城」は、中華民族のシンボルであり人類の平和と発展の重要なシンボルでもあります。鄧小平らの中国の最高指導者が、中国の植林と緑の問題に対しては、数多くの指示と呼び掛けを出し、「中国に緑の長城を！」という指示を出しております。
- ・ 我々は、2008年の北京オリンピックの開催にあたり、「緑のオリンピック」の開催の為に現在全力を尽くしており、中国社会全体の調和ある社会の実現に向けて路力しております。
- ・ また、日本の皆様や全世界が注目している共通の課題である「地球温暖化の防止」にも努めてまいりたいと中国も考えております。
- ・ 地球温暖化の主因でもある石油等の化石燃料の消費に対して、植物が生産する「バイオオイル事業」の展開についても、日本の皆様と手を携えて頑張って植林して参り、「植物油田」というべき植物油「バイオディーゼル生産の油田」の建設に努めたいと思います。
- ・ 本日は、中国国民の敬愛する故周恩来元総理の生誕109周年の記念すべき日にあたり、周恩来元総理は、中日両国国民の友好の為に一生を通じて生涯努力を注がれました。「中国の自然生態の環境保護」と貧しい「農山村地域の緑化事業」にも、極めて強い関心をお持ちでした。「水を飲む時には、井戸を掘った人を思い出せと、いつもおっしゃっておられました。
- ・ 本日のこの中国国民の敬愛する故周恩来元総理の生誕109周年の記念すべき日に特別な記念すべき日に、「地球緑化推進セミナー」を開催されたのは、故周恩来元総理に対しての主催されました佐宗邦夫会長の特別な尊敬の意の表われと、我々中国国民は高く評価して、中日友好のいい記念になるものと考えます。
- ・ このゼミナーの成功と皆様のご健勝と繁栄を祈り、新NPO「地球緑化推進機構」の設立と認可が下りてから、出来るだけ早い時期に、北京で「中日両国の共同の協力事業」としての「地球緑化推進事業」の展開をめぐって話し合う機会が得られますに期待しております。

中国緑化基金会 緑長城作業委員会 常務副主任 兼 秘書長 紅成

環境コンサルタント・故周恩来元総理姪（養女）婿 任長安 氏 13時30分～14時

『 中国での植物油田（代替燃料確保）の植林（南洋アブラ桐：Jatropha curcas & プンカンカ（文冠果））最新事情 』

続いて、環境コンサルタントで、日中経済コーディネーターとして日中間の通訳や翻訳等の他に両国の技術やビジネスの交流と橋渡し役でもご活躍の故周恩来元総理姪（養女）の婿である元新華社日本特派員の任長安氏が、約30分間（13時30分～14時）程、中国国内での大変に重要になってきている植林事情について、特に、現在、大変に話題になっている中国での植林の中でも、「植物油田（代替燃料確保）の植林（小桐子：Jatropha curcas（南洋アブラ桐）最新事情（含油率/30-60%）」について、単なる二酸化炭素の固定化という意味での地球環境保全の国家の環境政策としての植林のみならず、代替燃料としての植物油田確保の為にバイオディーゼル原料の植物油の確保の為に植林の重要性と、それ以外の中国での植林が注目されている植物性燃料油で、中国黄土地帯の油科植物 プンカンカ（ムクロジ科）についての報告があり、中国での植林動向についての報告をしました。注目すべき植物油の取れるブンカンカ（文冠果）は1属1種の中国固有の植物です。北部の中国東北部からモンゴルにかけて分布しています。属名は xantho（黄色）と ceras（つの）からなり、花卉の間にある、角状の突出した黄色い腺があることに由来します。写真では暗くて少しわかりづらいかもしれませんが、中心のめしべと8本の白いおしべの他に、花卉の間に黄色い腺があるのがわかるでしょうか。この植物は落葉樹で、生長すると高さ8mにもなります。ブンカンカは中国の北京植物園より種子を導入し、今年初開花しました。花の時期は4月から5月で、開花してすぐは花卉の基部が淡い緑色なのですが、開花後2、3日で黄色からうす紅色に順に変化していきます。この植物は日本の植物園ではあまり植えられていないようです。ブンカンカは耐乾性が強く、乾燥した黄土地帯でもよく生長します。花が終わると4～6cmのさく果ができ、中には直径1cm程度の黒褐色の種子ができます。ブンカンカの自生地では、熟す前の白い種子を食用にしたり、熟した種子から油を搾ります。この油は食用にしたり、石鹸を作るのに利用されます。しかしながら、熟した種子の皮は硬く、油を絞るのに苦労するようです。また、この植物は薬用としても利用されています。中薬大事典（小学館）によると、枝葉や、外皮を取り除いた木材を煎じて内服したり、煮詰めて膏剤を作り、リウマチ性の関節炎に処方することがあるようです。その実の油含有率30.8%から70%というのもあり、実の皮の硬さが問題とか。落葉灌木或は小高木の高さ2～8mで奇数羽状葉 小葉9～19で、主要分布：寧夏・甘肅・遼寧・黒龍江・内蒙古・山西・河南の丘陵山岳地や朝鮮半島にも分布するが日本には自生しない。こうした植物油の取れる植物の植林が、地球温暖化対策としての二酸化炭素の固定化と共に、石油・石炭・天然ガス等の化石燃料の代替としてのエネルギー資源としても、中国では大変に注目されてきています。

ランドスケープデザイナー 白砂伸夫 氏 14時～15時

『 緑化に向けた国民の心を変えるガーデニング普及 と 今後のビジネス展望 』

続いて、ランドスケープデザイナー 白砂伸夫 氏が、14時～15時の間、ガーデニングの効用を同氏が携わったランドスケープデザイナーとしてのガーデニングの映像を映写しながら、地球温暖化問題の解決の為に、身近な住空間にあるガーデニングの効用と、その振興が如何に人々の心のあり方を変えて、緑に対する国民の心が変われば、地球温暖化の原因となっている生活方式を変え、環境を変えて行くことができるかについてのガーデニング普及効果を、「緑化に向けた国民の心を変えるガーデニング普及 と 今後のビジネス展望」というテーマでお話戴きました。

同氏は、この冬に本来ならば晩秋に落葉樹の街路樹に紅葉したままで残っていたこと、土手のオオ イヌノフグリが青い花を咲かせたこと、ロウバイの花の咲く時期が毎年徐々に早くなっていることや、ヤナギはその早い新緑の美しさで『ウィロウグリーン』と呼ばれて来ましたが、このままでは冬も葉が落ちず常緑になり、『ウィロウグリーン』という言葉も死語になる可能性があります。地球温暖化による異常高温が、日常に見られ感じられるこうした植物の変化により、なにやら地球規模での環境の大変化が起こっていると考えざるを得ないのです。地球環境というのは、単一現象だけが起きているのではなく、多くの事象が密接に繋がった連鎖となって、一つの生態系の構造として存在しており、人間もその構造では連鎖の一部を構成している一生物種に過ぎないと自覚するべきです。人類は、産業革命以来、その工業化の手段により、自然環境を改変してゆき地球の自然の持つキャパシティ以上に人口を急増させて、その歪みが地球の生態系を狂わせ、地球温暖化をきっかけとする地球の気候変動は、既に多くの生物種を絶滅に追い込んで来て、やがてその流れは人類自身の種とし

での絶滅へと向かう未来の危機に瀕しています。その未来は、ここ2・3年の人類の生き方が、その方向性を大きく決定するとも言われています。

そこで、人類の生き方を変えるには、今こそ全ての人が、皆、ガーデニングを実践することにより、地球環境を考えるべき時にきており、地球環境の基本構造を作ったのは地球に生まれた植物で、植物が炭酸同化作用によって二酸化炭素を固定して、代わりに酸素を排出したからこそ、地球上の大気組成に酸素が加わり、その酸素を利用することで生物進化を遂げた動物の人類にいたるまでの壮大なる生物群の系統樹が誕生したのです。ですから、古代神話ギルガメッシュ叙事詩の「森の神のフンババの殺害」の神話が、木を切って植物が育たない砂漠化が進み雨が降らなくなるという悪循環に陥った人類の犯した悪例を世界中に見るのです。フンババを殺して、森を切り開きやがてメソポタミアは都市文明を発達させはしましたが、レバノン杉の森は消え、やがて雨が降らない砂漠化が進み、その都市文明そのものが崩壊し滅亡してしまいました。やしやり『緑』は『生命の揺り籠』だったのです。

こうした地球環境を作った『植物』を知ることが重要であり、その為にはガーデニングは、その植物の生命に接し、その生命を育むことの出来る大切な機会の空間であり、この自然と出会い理解する最も身近な機会として、ベランダ・ガーデニングでも、室内ガーデニングでも、コンテナ・ガーデニングでも世界中の人々が始めるべき時です。こうしたことの普及の為にも、私は、7年間にわたり毎年、東京の「ホテルオークラ東京」に58カ国70人の世界各国の大使夫人の参加を得て、世界各国の庭園を各々の花と緑でデザインした華やかな庭園を創造して、お互いの庭園がコミュニケーションをとり、世界平和の架け橋としても機能する、イベントをコーディネートして、世界各国に空間的・時間的連続性のある庭園を展示する稀有なイベントに発展させて来ましたとの内容の講演と実際のガーデニングの映像のご紹介をいただきました。(添付資料2、参照)

地球環境評論家

船瀬俊介 氏

15時～16時

『 屋上・壁面緑化の現状と今後のビジネス展望 & 地球環境蘇生に向けての提言 』

続いて、地球環境評論家の船瀬俊介氏が、15時～16時の間、屋上緑化が如何に1石10数鳥の効果のある優れたヒートアイランド現象の抑制と地球温暖化防止の効果の高い対策かということ、具体例に即してお話師戴き、「屋上・壁面緑化の現状と今後のビジネス展望 & 地球環境蘇生に向けての提言」というテーマで、熱っぽくかつ軽妙洒脱に、いつものようにお面白い語り口でお話しいただきました。暖冬が深刻な問題となり、豪雪地帯に積雪がなく田植えの農業用水の欠乏が懸念されて農業生産への打撃が懸念される。背景には地球温暖化問題が横たわり、4年前に米国国防総省の出した報告書が『2020年には、欧州の主要都市が水没する。』と警告しているのを、ブッシュ大統領は無視して、アフガン・イラクで対テロ戦争を開始したが、世界中で二酸化炭素を真剣に削減せねば、もう取り返しがつかなくなる。12000年以上の太古から存在してきた南極の巨大氷棚(東京の1.5倍以上の面積)も温暖化で瓦解し、僅か35日で海水に没した。その分海水量が増し、海面上昇を加速し、太平洋の諸島が水没し、日本でも海面が1m上昇すると海岸線の砂浜の9割が消え、漁業や生態系に大打撃を与え、高潮・津波・熱波・旱魃・巨大ハリケーン・大洪水などの災害被害も甚大になる。この世界的に深刻化する地球温暖化を自分の問題と真剣に取り組み、「車に乗らない。過剰包装は拒否する。冷暖房は極力使わず使っても冷房は1度高く、暖房は1度低く設定する。電気製品の主電源を切る。風呂の残り湯を洗濯に使う。炊飯器やポットなどの保温を止める。家族は同じ部屋で団欒し、冷暖房と照明を2割減らす。・・・等の項目を励行すれば、二酸化炭素を年間13%減らすことが可能で、過程は年間4万年の家計の節約になる。(添付資料3、参照)

こうした省エネルギーの対策の中で、都市緑化の最も有効な策が、屋上緑化であり、ただ都市の建築物の屋上を緑化するだけで、都市熱帯化(ヒート・アイランド化)を救う。これは、植物の持つ緑の水分子の蒸散作用による気化熱が都市の熱を奪い、その“天然のクーラー”の働きで、5 ぐらい下がり、ひんやりする冷却効果が期待出来る。最大電力消費が1975年から1999年までの25年間で、2.3倍強に急増し、さらに1999年には、1日の昼間のピーク時の最大消費電力は、夜間のボトム時の2.1倍にも達し、気温が1 上がると約500万kwも、電力消費ははね上がり、これは100万kw原発の5基分の電力消費量の増加に相当して、2000年には700万台以上のクーラーが売れたというが、その冷房電力に必要とする電力消費の増大量には、あきれさせられる。こうした、ヒート・アイランドのピーク時には、屋上緑化の効果で5 以上の冷却効果があるということは、これは100万kw原発の5基分の電力消費量に相当する省エネルギー効果があるということである。その分の原発がいらなくなるということである。(資料3、参照)

(2) 懇親会 16時～17時半

懇親会は、セミナー会場と同じ星陵会館の4階の、レストラン「シーボニア」を会場にして開催された。懇親会から参加された方々も30名ほどを数えて、セミナー参加者の50名ほどと合わせて、約80名ほど(招待客を含む)の盛会でありました。新しく内閣府に申請中の新NPO「地球緑化推進機構」の理事を中心にして、司会(濱田理事)や挨拶(神谷光徳副理事長・宮崎林司副理事長・松延洋平屋上緑化普及協議会副会長)が、なされた。続いて、新しく内閣府に申請中の新NPO「地球緑化推進機構」の設立にいたった経緯とどういふことをしようとしているのかの説明が、事務局長に就任予定の関村浩氏からの解説があった。(添付資料「特定非営利活動法人 地球緑化推進機構」について)参照)

(3) 参加者アンケート

- ・ 中国大使館参事官がこられなかったのは、残念でありました。温家宝総理の来日も来月中旬に控え、次の温暖化防止の議定書作りに中国は参加する意思表示を来日時にしたい。
- ・ 任長安氏の中国における“植物燃料の確保の為の植林事業”の動向は、とても勉強になった。
- ・ 白砂伸夫氏は、身近な植物の世話をするガーデニングが、地球温暖化の危機に対応する心を如何に育てるのに役立つかということが理解出来て良かった。
- ・ 船瀬氏の講演は、地球環境の異常事態に対応した取り組みが緊急に求められていることがよく理解出来た。

(4) 収支結果 (詳細:別紙参照)

有料参加者が80名程度に留まったため、大幅に収入が見込みより下まわり、僅かに31.5万円程度と下がってしまい、また賛助金も僅か1社だけで合計10万円のみであったため収入合計は、懇親会収入を入れても61.5万円程度に留まった。他方、支出がも、中国本国からの招待客がいなかったため、会場費の45万円強・講師謝礼30万円・翻訳代2万円、広告宣伝費46万1500円、雑費3万円で差し引き、68万円強もの大幅赤字果に終わった。

(5) 今回のセミナーで実施した環境配慮

飲料水等を提供する際、廃棄物とならない容器を使用した。

車の来場を控えるよう依頼するとともに、車で来場する場合は、駐車場におけるアイドリングストップを呼びかけた。

(6) 総合評価

2007年4月12日(木)に、新しく日中両国の「戦略的互惠関係」のパートナーシップを謳い、中国政府の温家宝首相が来日され、日中両国の新しい友好関係構築の時代がスタートした。その先駆けで、環境面で両国の新しい分野のパートナーシップの協力関係がある。そうした具体的な好例として、来日1カ月前に屋上緑化・ガーデニング・植林の環境分野で、日中両国がその交流や提携の協力関係のきっかけを作るこのセミナーは、地球温暖化防止の為に、人類共通の二酸化炭素固定化の為に「緑化の実践活動」として極めて有効であった。両国共通の課題として、「地球緑化推進」が謳われたのは、極めてタイムリーでもあり、現実の両国関係の環境面での協力の一つになり得た、誠に意義深い好企画で高く各方面から評価された。外務省・国土交通省・環境省・農林水産省・東京都や東京商工会議所の後援を戴き挙行したのに、誠に相応しいこじんまりとしたイベントではあったが、中国をも巻き込み地球温暖化ガスの二酸化炭素の固定化を推進するきっかけ作りの運動となる地球・国家的使命を担う意義深いイベントの一つになったと自負している。地球温暖化の抑制の京都会議国際合意の京都議定書には参加しなかった中国政府は、4月12日に来日した温家宝首相が、5月30日に開かれた國務院(中央政府)常務会議で、地球の気候変動に対応する為の国家計画を決めたが、それは、地球温暖化ガス排出の抑制目標や手立てを盛り込んだ国家計画で、温暖化対策が議題になる今度の主要国首脳会議(ハイリケンダム・サミット)に備えて、エネルギーを無駄遣いする成長方式を改めて、人口増を抑えるなどを提起した。気候変動への対策を経済と社会の発展計画に組み入れ、国際協力を進めることを掲げたもので、国家政策として、次の地球温暖化防止の国際的枠組みには中国も参加するとの発表がなされたので、そうした流れのきっかけとなり誠に喜ばしかった。

環境 NGO 屋上緑化普及協議会 会長 佐宗邦夫

住 所 東京都新宿区若葉 1 - 9 TEL & FAX 03 - 3353 - 6499

Eメールアドレス sasokunio@hotmail.co.jp

URL <http://www.worldforum.jp/green/index.html>